

低リスク 高齢者も適応

心房中隔欠損に経皮的治療

北海道大野記念

心房中隔欠損部の拡大図。2枚の笠で孔を塞ぐ

現。手術支援ロボット・

ダビンチを使ったロボッ

ト支援弁形成術も実施し

ており、今後、保険適用

が拡大すれば、心房中隔

欠損にも活用したい考え

だ。

経皮的治療法の道内実

施設は、手稲渓仁会病

院、道立子ども総合医療

療育センター、旭医大病

院に次いで4番目。成人

を対象に開胸手術とM

I

手術適応とされてきた。

しかし、経皮的治療法は

次予防などの目的で積極

的に選択できる。

リスクが小さいため、流

出する血液が少なくて

経食道エコーや心腔

内エコーなどの最新機種

と、技術に優れたスタッ

フをそろえたことで、よ

り安全・確実な手術を実

行することができた。

CCS、ダビンチ、経皮的

治療法の4つに対応して

いるのは、全国的にも数

少ない。

山下副院長は、「患者

の状態に合わせて、ベス

トな治療を選択できる点

と、内科と外科の連携の

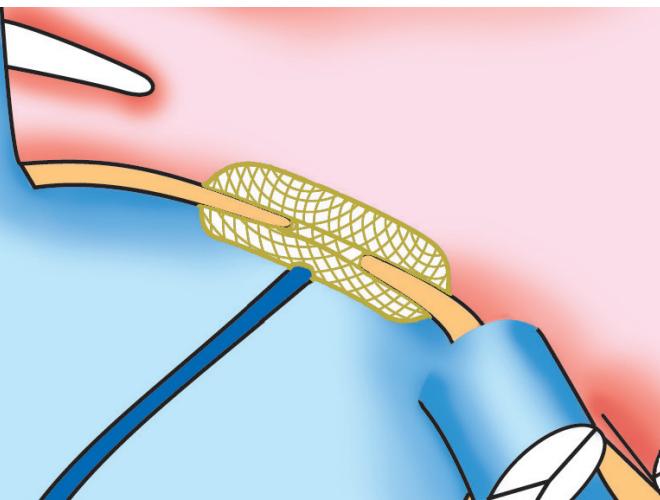
良さを生かした質の高い

治療をアピールし、地域

の医療機関からの紹介

を積極的に受けている

い」と話す。



先天性心房中隔欠損は、小児のうちに発見され、治療されるケースが大部分だが、思春期まで無症状で40歳以降に症状が出現する場合もある。国内で多くの治療実績を有する岡山大病院（齋藤孝次理事長、大川洋平院長・276床）は、経皮的心房中隔欠損閉鎖術の施設認定を受けた。成人の心房中隔欠損に対して、カテーテルを用いた低侵襲治療が可能となり、リスクの高い高齢者にも活用していく。

先天性心房中隔欠損は、小児のうちに発見され、治療されるケースが大部分だが、思春期まで無症

状で40歳以降に症状が出

現する場合もある。国内

で年々2~3例、成

人を開胸手術や低侵襲心臓手術（MICS）を実施。TAVI・PCI等

一定数以上の構造的心疾患治療実績や、右心カテーテル検査実績などの施設・業者要件を山下武廣副院長がクリアした。

経皮的心房中隔欠損閉鎖術は、食道エコーで観察しながら、笠を左心房で開く。その後もう一

他施設での先行事例で

る岡山大病院の患者で、タをみると、大まかに20歳以下が6割、30~60歳代が3割、70歳以上が1割となっている。

北海道大野記念は、これまで年に2~3例、成

人に開胸手術や低侵襲心臓手術（MICS）を実施。TAVI・PCI等

一定数以上の構造的心疾患治療実績や、右心カテーテル検査実績などの施設・業者要件を山下武廣副院長がクリアした。

経皮的心房中隔欠損閉鎖術は、食道エコーで観察しながら、笠を左心房で開く。その後もう一

他施設での先行事例で

る岡山大病院の患者で、タをみると、大まかに20歳以下が6割、30~60歳代が3割、70歳以上が1割となっている。

北海道大野記念は、これまで年に2~3例、成

人に開胸手術や低侵襲心臓手術（MICS）を実施。TAVI・PCI等

一定数以上の構造的心疾患治療実績や、右心カテーテル検査実績などの施設・業者要件を山下武廣副院長がクリアした。

経皮的心房中隔欠損閉鎖術は、食道エコーで観察しながら、笠を左心房で開く。その後もう一

他施設での先行事例で

る岡山大病院の患者で、タをみると、大まかに20歳以下が6割、30~60歳代が3割、70歳以上が1割となっている。

北海道大野記念は、これまで年に2~3例、成

人に開胸手術や低侵襲心臓手術（MICS）を実施。TAVI・PCI等

一定数以上の構造的心疾患治療実績や、右心カテーテル検査実績などの施設・業者要件を山下武廣副院長がクリアした。

経皮的心房中隔欠損閉鎖術は、食道エコーで観察しながら、笠を左心房で開く。その後もう一

他施設での先行事例で